

連続セミナー第5回障がい児・医療的ケア児の親と就労

障がい児・医療的ケア児が安心して暮らせる 地域づくりに向けて



2026年6月28日

飛驒市長 都竹 淳也

自己紹介



岐阜県 飛騨市長

都竹 淳也

つづく じゅんや

H1.3 筑波大学卒業
H1~3 岐阜県庁入庁
H6~9 自治体国際化協会 シンガポール事務所
H9~10 ソフトピアジャパン (IT拠点)
H11~17 秘書課 (梶原・古田知事秘書など)
H18 総合政策課 政策企画担当
H19~20 総合政策課 長期構想担当課長補佐
H21~24 商工政策課 政策企画担当課長補佐
H25~27.12 障がい児者医療推進室長
H28.3~ 飛騨市長 (現在3期目)

[現在の主な役職]

全国市長会社会文教委員会委員長 (R6.6.12~)
全国市長会相談役 (R8.6.10~)
中央教育審議会委員 (R7.3.10~)
医療的ケア児者を応援する市区町村長ネットワーク会長 (R5.11.15~)
地域に飛び出す公務員を応援する首長連合共同代表 (R7.1.18~)
地域共生政策自治体連携機構代表理事 (R7.7.28~)
地域ケアサービス再生存続自治体協議会筆頭代表 (R7.7.28~)

[過去の主な役職]

東海市長会会長 (R6.6.12~R7.6.4)
林野庁 里山広葉樹利活用推進会議委員 (R6.11.1~R7.3.14)
こども家庭庁 幼児期までのこどもの育ち部会委員 (R5.4.1~R7.3.31)
厚生労働省 社会保障審議会医療部会委員 (R3.6.2~R6.6.12)



01

飛騨市の概要



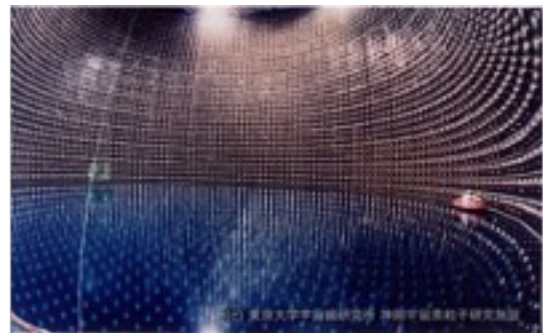
ユネスコ無形文化遺産登録の「古川祭」



三寺まいり



きつね火まつり



ノーベル物理学賞2名を輩出した研究施設
「スーパーカミオカンデ」



「令和」を揮毫した
茂住修身さん



豊かな自然を満喫しよう！
岐阜県飛騨市は「君の名は。」を応援しています。
イメージとして飛騨市が登場する
映画「君の名は。」



古い町並み



生掛け和ろうそく

飛騨市のご紹介



中日ドラゴンズ
根尾昂選手



【飛騨の名産】
飛騨牛
飛騨中華そば
朴葉味噌
地酒
みだらしだんご

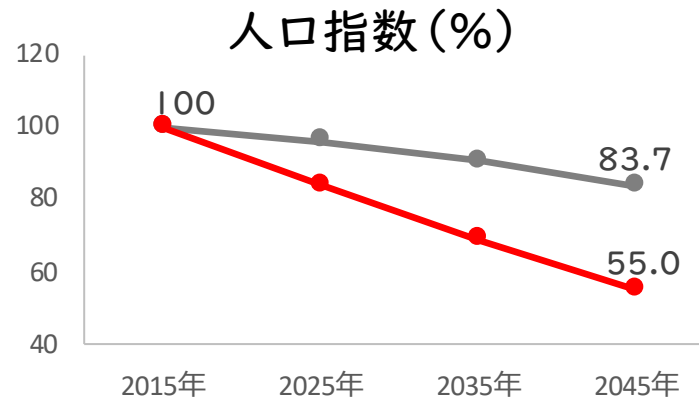
飛騨市の概要

- ・岐阜県の最北端に位置し、北は富山市、南は高山市、西は白川村。
- ・人口:21,727人・高齢化率:40.4%(R6.12.1時点)

市の面積 792.53平方キロメートル
全体の約93%が森林

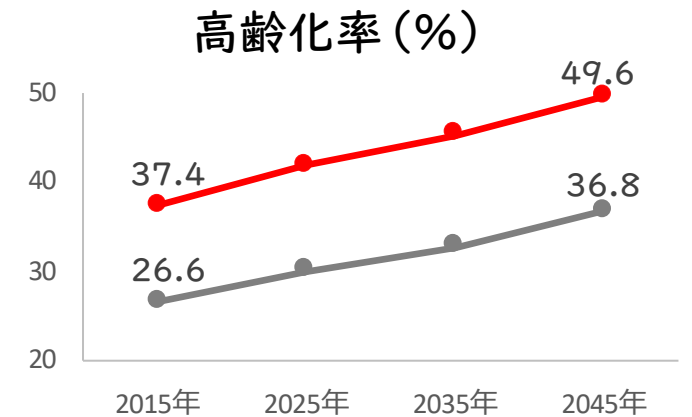


『人口減少先進地』～加速する人口減少・高齢化～



全国の倍のスピードで人口減少

過疎地域



日本の30年後の姿がもうここに

超高齢地域

飛騨市の人口規模

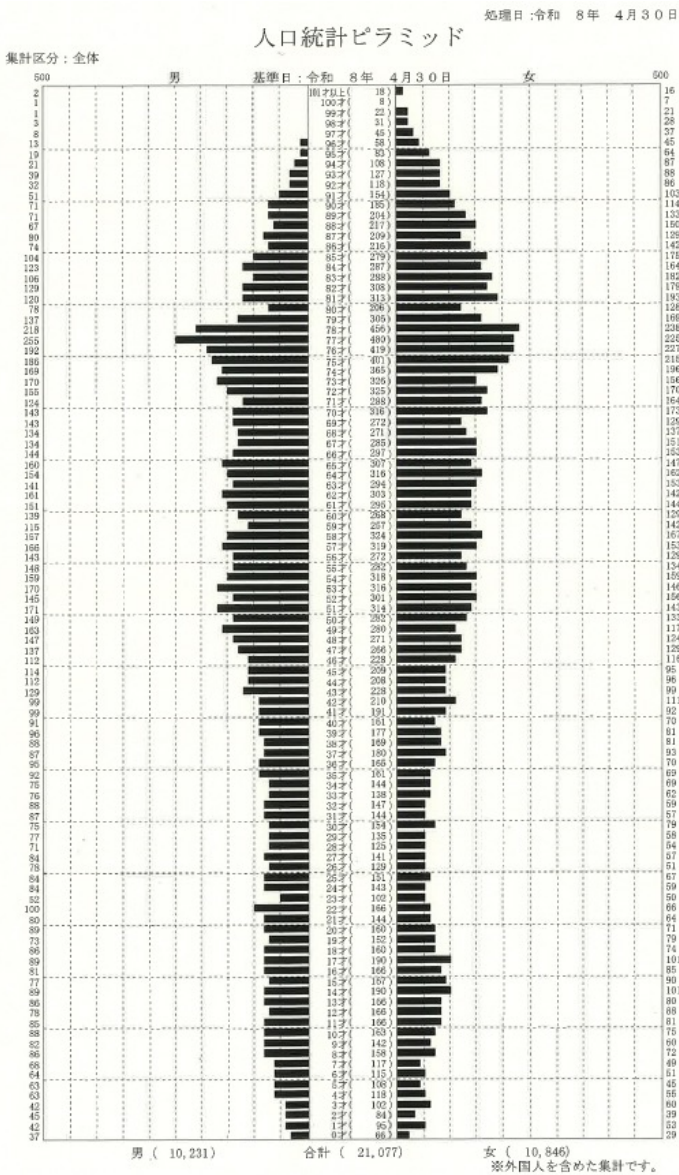
R8.4.30現在

年代区分			人数(人)	
0～3才	4年	乳幼児期	347	こども世代 2,639人 (約2.5千人) 約13%
4～6才	3年	就園期	341	
7～12才	6年	小学期	912	
13～15才	3年	中学期	523	
16～18才	3年	高校期	516	
19～24才	6年	青年期	867	就労世代 9,840人 (約10千人) 約46%
25～59才	35年	実年期	7,497	
60～64才	5年		1,476	
65～69才	5年	老年期	1,432	老年世代 8,598人 (約8.5千人) 約41%
70～74才	10年		1,620	
75～84才	5年		3,464	
85才以上			2,082	
合計			21,077	

内、外国人342人

8,846世帯

**実年世代は
約半分弱**
こども1割
高齢者4割





02

障がい者の親として

障害児者支援を進める目的と背景

重度の障がいのある次男が、障がい児者支援の道に 私を誘ってくれました



次男 将乃介

生活介護事業所「ピース」通所中

平成16年5月5日生まれ
(22歳)

自閉症を伴う重度の知的障がい者

療育手帳 AI

1歳半での気づき

01 発達支援センターのぞみへの相談と受診 相談まで3ヶ月待ち、診察まで3ヶ月待ち

02 恵光学園への入園 身辺自立からという医師の勧めで母子通園の支援施設に入園



03 幼稚園への転入 長男がお世話になった幼稚園からの勧めで、年中の秋に転園。以降、卒園まで1年半通った。



04 岐阜特別支援学校への入学

- ✓ 同級生は恵光学園時代からの仲間ばかり
- ✓ 個々に応じた対応の徹底
- ✓ 我が子の将来モデルとなる児童・生徒の存在
- ✓ 小学部時代から高等部卒業後を意識した教育の実施
- ✓ 悩みを共有できる同じ境遇の親の存在

05 年齢に応じた課題の出現

- ✓ 少しずつ様々なことが理解できるようになる一方で、新たなこだわりが出たりする。
- ✓ 思春期特有の問題やてんかんの出現など日々変化



06 特別支援学校卒業後、生活介護事業所

- ✓ 毎日、イヤイヤながら通いながらも、作業に取り組んでいる様子。
- ✓ 親が高齢になる時期を見据えて、人生をどう考えるか迫られるようになってきた
- ✓ 2023年に母親の入院・手術時にショートステイを利用



キューブラー・ロスの「死の受容5段階モデル」

〈第1段階〉 否 認

予期しない衝撃的な事実に対し、そのショックをまともに受けないために、まず否認がおこる。
自分は死ぬはずがない、嘘であると否定する。

〈第2段階〉 怒 り

死という現実を認めざるえなくなると、「なぜ自分だけこんな目に合うのか」と怒りを周囲に向ける。

〈第3段階〉 取 引

なんとか延命しようと、神や仏など、何かにすがろうとする。「もう財産はいりませんから命だけ助けてください」

〈第4段階〉 抑うつ

以上の段階をへて、それらが無駄であることを知ってうつ状態におちいる。絶対的な悲しみの状態。

〈第5段階〉 受 容

来たるべき自分の終えんを静かに見詰めることのできる受容の段階。

我が子に障がいがあるという事実直面した親も
これと同じ5段階をたどり、それを繰り返していきます

家族はどのように救われるか

- ✔ 「この子はこの子なりでいいんだ」
「うちもどこにもある普通の家族なんだ」
と認識させてくれる人たちの存在
- ✔ 困難な状況でも、笑顔で明るく支えてくれる人たちの存在
- ✔ 悩みを共有できる仲間の存在

「〇〇くん」「〇〇ちゃん」という
固有名詞での存在を認めてくれる社会
困ったときは頼ればいいんだと思える社会

自分自身の転機となった出来事

平成18年夏のこと。。。

- ✓ 発達支援センター、小児科医の初診待ちの長さを体験し、県庁の重点政策協議の場でこれをなんとかする政策を打ち出せないものかと問題提起した。
- ✓ 幹部から公私混同だと批判されたが、当時の健康福祉部長が「お前が人に言いにくいことを言って訴えるのはよほどのことだろう。とにかく何とかできないか調べてみる。」と言ってくれた。
- ✓ それを受けて、翌年度の当初予算に、各圏域の医療機関に発達障害専門外来を設置した場合に補助を出すことで、地域での診察を促進させようという「発達障害専門外来診療促進事業」として630万円余が盛り込まれた。

これはうちの次男・将乃介が取った予算だと思った。
心底うれしかった。

同時に、障がいの分野で、自分が気がついたことを政策に
していくのが、公務員という立場にいる自分に与えられた
使命であると思った。

そして、そうすれば、次男が世のため、人のために役に立っ
たことになる。それが親としての務めであり、自分がこの子
のためにしてやれることだと思った。

のちに、びわこ学園創始者の系賀一雄先生の名言が
このことだと思うに至る

「自覚者が責任者である」

課題に気がついたのなら、
気がついた者が、
その課題を解決するために率
先して取り組む責任がある。

障がい児者支援の世界を切り
拓いてきたのは、
多くの先人たちの、
責任ある率先した取り組みで
ある。

03

岐阜県庁時代に学んだこと

障がい児者医療に携わった経験

私の在任期間は、平成25年4月～27年11月の2年8ヶ月

平成25年度：総合療育推進室長、26年度～：障がい児者医療推進室長

障がい児入所施設整備というミッションからのスタート 平成25年4月

① 4月第1週に聞いたある医師のひとこと

「福祉課の方だと話が通じなくて…」

② 政策の転換と拡充

3ヶ月後(7月)の政策協議で「障がい児者医療」を提唱

③ まずは先進地の取り組みを学ぼう

国内各地の小児在宅医療関係者 や 障がい児者医療学寄附講座の取り組みなどを学んで歩いた

- ・名古屋大の障がい児者医療学寄附講座は25年6月に訪問
- ・小児在宅医療モデル事業の実施病院は25年12月に長野県立こども病院訪問 が皮切り

岐阜県の小児・障がい児者医療支援施策

(平成23年度以降)

<在宅障がい児者家族支援>

- ◎重症心身障がい在宅支援センター「みらい」の運営
- 在宅医療的ケア児等短期入所等支援事業費補助
- 短期入所等利用促進体制整備事業費補助
- ★要電源重度障がい児者災害時等支援ネットワークの構築
- ◇医療的ケア児等災害時電源確保ガイドブックの作成
- ◆要電源重度障がい児者非常用電源装置整備補助

<多職種連携・普及啓発>

- 岐阜県小児在宅医療研究会
- 東海三県小児在宅医療研究会
- 障がい児者支援を考える公開連続講座
- ▽『かけはしノート』の活用(R3改訂)
- ◎在宅障がい児者病診連携事業[~H29]
- ※NICU等からの在宅移行支援事業補助金

<医療・福祉人材の育成・確保>

- ◇小児在宅医療教育支援センター
- ◎小児等在宅医療個別指導事業[~R3]
- 重症心身障がい児者看護人材育成研修
- ◇小児在宅訪問看護人材育成研修
- 医療的ケアを必要とする障がい児看護マニュアル
- 小児・障がい児(者)リハビリテーション専門研修
- 福祉事業所等医療的ケア支援事業費補助
- 喀痰吸引等研修の受講促進支援
- ★医療的ケア児等コーディネーター等養成研修
- ▲医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修

<障がい児者入所施設の整備>

- ☆希望が丘こども医療福祉センター再整備
(入所定員43名、うち短期入所最大5名)
- ☆県総合医療センター障がい児施設「すこやか」の整備
(入所定員30名、うち短期入所3名)

<施策立案調査>

- ▼▲在宅重症心身障がい児者等実態調査
- 小児・障がい児在宅医療・福祉資源調査
- 重症心身障がい者入所施設整備調査

手始めは短期入所の拡充から なぜ、短期入所事業所が拡大しなかったのか？

- ✓ 医師、看護師が重症心身障がい児の診療経験がない医療機関が多いこと
- ✓ 看護師やベッドの不足など、対応できる体制が整わないケースが多いこと
- ✓ 家庭と同レベルのケアを求められても対応できないことによる家族とのトラブルを懸念する意識が強いこと
- ✓ 保険入院で受け入れた際の診療報酬よりも、短期入所の介護給費の方が安いこと

根底には、
「短期入所は福祉サービスであり、医療機関がすべきことではない」
という意識がある。

在宅医療的ケア児等短期入所等支援事業費補助金

事業のポイント

- ・特に医療型短期入所事業所（医療機関）が不足している地域を中心に、在宅医療的ケア児等に対応可能な看護師を配置する福祉事業者が、重要な受け皿となっている現状を踏まえ、福祉施設が行う短期入所事業、日中一時支援事業も対象とする。
- ・重症心身障がい児者と同水準の障がいの運動ニューロン疾患患者（筋萎縮性側索硬化症（ALS）、脊髄性筋萎縮症（SMA）等）を受け入れている事業所もあり、対象として明確に位置づける。

事業実施団体

岐阜県（補助事業）

予算額

R6：37,790千円

事業内容

医療的ケアの必要な以下の対象者に対して短期入所・日中一時支援を行った場合に必要となる経費の一部について一定額を補助。

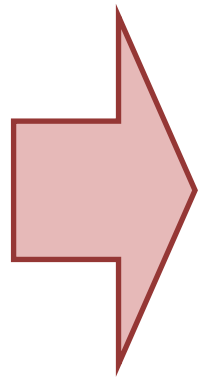
対象機関	医療機関	福祉施設
対象事業	短期入所事業	短期入所事業・日中一時支援事業
補助金基準額	利用者1人当たりサービス提供を行った日につき5,900円	利用者1人当たりサービス提供を行った日につき6,800円
対象者	重症心身障がい児者、運動ニューロン疾患患者（筋萎縮性側索硬化症（ALS）、脊髄性筋萎縮症（SMA）等）、遷延性意識障がい児者のうち、医療的ケアのスコアが10点以上の者	

その頃、こんなことを考えてました……

医者も看護師も、国家資格持って特別な立場にあるのに、
自分のことしか考えないのか、この野郎……とか

人を助ける仕事じゃないのか、目の前で困っている人がいて
も、なんとかしようと思わないのか、この野郎……とか

こいつらを参ったと言わせる方法はないか……とか



だったら、言い訳のネタを全部つぶしてやろう、
逃げ道を全部塞いでやろう
と考えた

小児在宅医療教育支援センターの運営

- ・岐阜大学医学系研究科に設置。
- ・障がい児者医療学寄附講座が6年間で積み上げた実績やネットワークを引き続き活用し、当講座の実施により見えてきた課題に対応するため、小児在宅医療教育支援センターを設置し、医療的ケアが必要な障がい児者とその家族の在宅生活を支える医療に携わる医療従事者等の人材育成、関係医療機関との連携支援等を図る。

<主な役割>

- ・関係医療機関からの相談に対応できる窓口の設置
- ・小児患者の在宅移行支援
- ・県下の在宅医療に関わる医療資源の活性化と連携を支援
- ・移行期医療の支援
- ・在宅医療に関する人材育成
- ・障がい児者医療の普及啓発



事業実施団体

岐阜大学(委託事業)

予算額

R6 : 7,000千円

【第1期】H26~H28 : 各25,000千円

【第2期】H29~H31 : 各25,000千円

【センター】R2~ : 7,000千円

重症心身障がい児者看護人材育成研修

看護師向け

- ・重症心身障がい児者の在宅支援に重点を置き、訪問看護ステーションや特別支援学校と連携した実習を組み込むなど、重症児看護に関する年間約80時間の通年型プログラムによる本格的な専門研修を実施
(H26年度～R5年度の10年間で計323名受講)

日本重症心身障害福祉協会の重症心身障害看護師研修を参考に、実習重視でアレンジ

事業実施団体 岐阜県看護協会(委託事業)

予算額 R6 : 4,100千円

研修概要(令和6年度)

日程: 令和6年5月30日～令和7年2月14日
(全12日、のべ72時間の講義等)

受講者: 35名(予定)

… 病院、訪問看護ステーション、福祉施設、学校の
看護師、保健師

研修実績(令和5年度)

日程: 令和5年6月1日～令和6年2月9日
受講者: 35名



しかし、壁にぶちあたる・・・

在宅支援のことをやっているのに、ちっともイメージがわからない・・・
それは家に行っていないからだ！

- 26年1月、アツく情熱ある医師たちを介して、
岐阜市内の重症心身障がい児の自宅を訪問
- そのお母さんの紹介をきっかけに、県内の多くのご自宅を訪問
在宅生活を見せていただき、多くのお子さん、お母さんと出会う

徹底して現場に立脚した施策を展開しようとしたのが
岐阜県の取り組みの特徴になった

当時、新聞紙上でも
岐阜県の現場主義の
取り組みが大きく
取り上げられた

「現場はヒントの山。
現場を見ていることが
岐阜県の強み。」

「現場で困っていることを確認し、課題を施策につなげる。」



障がい児の自宅や生活介護事業所へ訪問を続けていると、
どんどん気づきが生まれてきた

- ✔ あるお宅で理学療法士による呼吸リハの様子を見た。
全身状態を良くすることを知り、同時に訪問看護師がそれを学び実践していることを知った。
- ✔ 生活介護事業所では、看護師の派遣を受けて医療的ケアの支援を行っているケースがあったり、ヘルパーが3号研修を受けて吸引を行っている様子を見た。



それを県の施策として全県へ広げていこうと考えた

小児・障がい児（者）リハビリテーション専門研修

- ・在宅の重症心身障がい児者の家族が今後最も利用したい医療サービスはリハビリ。
- ・しかし、入口となる小児を対象としたリハビリテーションを学んだ理学療法士等が少ないため、病院等においてもなかなか受け入れが進まない現状にある。
- ・このため、受入れマインドの醸成に向けて、小児・障がい児（者）を対象としたリハビリテーションに関する専門研修を実施。

事業実施団体

岐阜県理学療法士会（委託事業）

予算額

R6：500千円

【令和5年度実績】

日時：令和6年1月27日～28日

＜オンライン併用開催＞

テーマ：発達症に対する理学療法なんてあるの
かなあ？～みんなで一緒に考えよう～
こどもの運動療法と環境設定

講師：福井県総合福祉相談所
障がい者支援課 理学療法士
辻 清張 氏

受講者数：74名（県内在勤PT・OT・ST）



喀痰吸引等研修の受講促進支援

実施団体

基本研修(研修促進事業):登録研修機関(委託事業)
 実地研修(研修補助事業):登録研修機関(補助事業)

R6予算額

研修促進事業:2,478千円
 研修補助事業: 600千円

受講対象者:福祉事業所等に従事している介護職員、保育士等で特定の者(重度障がい者)に対して
 喀痰吸引等の行為を行う必要があるもの

区 分			支援の仕組み
基本 研修 年5回 実施 (定員:各 20名) 	講義	時間数:8時間(終了後試験:1時間) ○重度障がい児者等の地域生活、障がい及び支援、緊急時の対応、危険防止に関する講義	<u>◎喀痰吸引等研修促進事業(H27.10~)</u> ○支援対象:基本研修の受講料 ○支援方法:登録研修機関への委託 ○支援内容:基本研修実施経費 ・基本研修の実施に要する経費を委託により県負担とすることで <u>基本研修の受講料を無料化</u> ・ <u>研修の案内、受講者の募集・決定は県が実施</u>
	演習	時間数:1時間 ○シュミレーターを使用した喀痰吸引、経管栄養の演習 ※合格者に対して後日以下の実地研修を実施	
実地 研修	研修内容	時間数:指導講師による評価により問題が無いとされるまで実施 ※ケアポート研修(現地訪問)により実施 ○特定の者を対象者としての演習 ①喀痰吸引(口腔内、鼻腔内、気管カニューレ、人工呼吸器装着者) ②経管栄養(胃ろう・腸ろう・経鼻)	<u>◎喀痰吸引等研修補助事業(H26.12~)</u> ○支援対象:実地研修の受講料 ○支援方法:登録研修機関への定額補助 ○支援内容:訪問看護師への指導料 ・①、②の各メニューごとに上限1万円 (①+②同時受講の場合は上限2万円) ※指導看護師を自施設で賄った場合は対象外

障がい児の自宅訪問での気づきはこれに止まらなかった

- ✓ 子どものケアはほとんど母親によって担われていて、母親たちはNICUで知り合った仲間の母親たちを中心にお互いに悩みを共有できるグループを作っていた。
- ✓ 他方で、それ以上のつながりはなく、地域を超えたり、世代を超えたりすることがないこともわかった。
- ✓ 特に医療的ケアの必要な障がい児の場合は、相談支援が十分でなく、誰も手探り・自力で支援を探していた



県が全体を俯瞰できる強みを生かし、
世代・地域を超えて家族をつなぎ、相談に乗れる体制
を作ればよいと考えた

重症心身障がい在宅支援センター「みらい」の運営

- ・在宅重症心身障がい児者の家族や関係機関向け相談窓口を整備（H27.4.10開所）。
- ・医療面からの電話や訪問等による相談対応のほか、必要に応じサービス調整のための多職種カンファレンス等も実施・障がい児者の家族が気楽に集まって情報交換する場づくり（H27.2～）や、機関誌の発行（H27.7～）、ホームページを活用した情報提供を実施。

岐阜県の医療的ケア児支援センターに位置付け（R3～）

事業実施団体

県看護協会（委託事業）

予算額

R6：14,800千円

相談するところがない、相談支援が機能しない、親同士の交流で救われたなどの声を聞いたことをきっかけに立案。他県の取組も参考に企画。

<令和5年度の実績>

- ・相談件数325件（岐阜179件、西濃27件、中濃61件、東濃28件、飛騨19件、県外11件）
サービス利用、就園、進学等に悩む家族、小児在宅に参入したい訪看、医ケアが不安な特支からの相談 など
- ・医療・福祉・教育などのサービス調整カンファレンスの実施 31件
- ・家族交流会 岐阜：76人、西濃：71人、中濃：86人、東濃：45人、飛騨：55人
- ・機関誌発行：（H27.7創刊～）第18号発行（R6.1）
- ・教育機関（保育所・学校等）の看護師向け医療的ケア児看護人材育成研修の実施 20人



子どもたちと家族に喜んでもらえる取組みをするために
必要なことは

徹底的に現場に行き、
課題を自分で感じ、人と語り、
なんとかしなければという強い思いを持つこと
だと感じました。

そして、
私は平成28年3月に、縁あって、
故郷飛騨市の市長になりました。

私の市政では、
弱い立場にある市民を支援することを
最大の重点としています。

04

飛騨市における 障がい児者支援施策

障がいの定義と特色ある取り組み

飛騨市の障がいの定義 (R2年度～飛騨市生涯安心計画)

やりたいことがやりたいようにできないこと

作業遂行に着眼

対象はなんらかの生きづらさを感じる人すべて

飛騨市の「障がい」福祉の視点

「障がい」とは、できないことがあってもそれを理解してくれる人が周りにいない状態

本人も含め、家族、友達、周囲の人たちの
関わりのあり方が障がいとなる。

なので、**周りが変わる仕組み**をつくる。

全世代にわたる支援体制



幼少期

統合保育
児童発達支援
わくわく広場
相談 三月・七月・十二月・二歳
健診 乳児・一歳六月・三歳
保育所等訪問支援



学齢期

発達支援センター機能強化
日中一時支援
放課後等デイサービス
神岡町複合型児童施設
放課後等デイ・児童発達支援



成人期

多機能型障がい者支援センター古川いこい
グループホーム・短期入所・訪問看護
居宅介護・訪問介護・相談支援・ケアマネ
生活介護・就労継続支援
日中一次支援・短期入所
重度障がい者雇用
ふりーすぺーす
日中一時支援
就労継続支援

こどものころクリニック

作業療法士による専門相談

○地域生活安心支援センターふらっと

全世代のバイパス、世代で途切れない支援



01

レスパイト支援

飛騨市内医療的ケア児者の状況

医ケア者 2名（準超重心1名（20代）、医ケア1名（30代））

医ケア児 6名（超重心1名（10代）、準超重心3名（乳児2・小学生1）、医ケア2名（幼児2））

※医ケアでない重症心身障害児者 3名（児1名（10代）、者2名（20代））

※上記医ケア児者8名のうち要電源医療機器使用者6名

医療的ケア児者支援の最大の課題は「レスパイト」

当事者と医療提供者が直接話し合うと平行線となりまとまらなくなる

当事者ご家族

当事者さんの切羽詰まった状況はよくわかる。



医療等提供者

- ・医療機関やサービス事業者も限られたスタッフ体制で精いっぱい。
- ・既存リソース以上のことを求めるのも酷。

間に入るのは相談支援専門員。直接相対させない。

でも… 医ケアの医療提供体制に相談支援専門員お一人で調整に立ち向かわれ、
なんとかしようとされたものの病院相手ではさすがに無理な話

⇒ そこで「市」が「相談支援専門員」「医ケアコーディネーター」「県の支援機関」とタッグを組んでレスパイトコーディネートチームを組成するという、
市が間に入って調整する体制づくりしました。

これが市の事業

市が公式に入れば医療機関も聞く耳を持ってもらえる

飛騨市医療的ケア児家族の安心レスパイト支援

実践から生まれた新規施策

(1) 専門コーディネートチームによるレスパイト入院等の円滑な調整と実施

当事者とその介助者家族と医療機関等の間に立ってレスパイト入院の準備・調整・取りまとめを行うコーディネートチーム（飛騨市、重度心身障がい在宅支援センターみらい、計画相談員、有識者等によるチーム）を常設し、双方の課題等整理解決に結びつけます。

(2) レスパイト入院時における日中活動の支援

レスパイト入院中の病室等でのレクリエーション的な活動について、上記(1)のコーディネートチームが調整しその人のニーズに合った支援者（特別支援学校OB、音楽療法士、絵本読み聞かせボランティア等）を手配して一定時間市の負担により派遣します。

(3) 医療的ケア児や重度心身障がい者のタイムケア利用の促進

知人や紹介者などで一時的なケアを任せられる方がいる場合、市に申し出ることによってその方をタイムケア介護者として認定し、その方にケア対価として支払われた任意の謝礼に対し、補助します。

これは医ケア児者ご家族があくまで個人責任のインフォーマルな支援を受ける際の公的補助という形

- インフォーマル支援者に支援の対価で支払う謝礼等に対し、1時間上限2000円を市が補助する。
- 放課後等デイ等通所支援の事業所送迎に代わるタクシー代も補助対象にした。
- 今年度はライフイベントにおける年間特別支援枠150千円を増設
(例: 修学旅行時に家族が任意に手配した看護師の同行等への謝礼等への金銭支援)

フォーマル支援だけでは現状では限界がある
自分を助けてくれる人を自分で確保する＝自助

この考え方の普及

ここで学んだ大切なこと

- ✓ 介護者に何かあったときにすべがないという不安を持つ当事者
- ✓ 現在の人手不足が著しい現状の医療やサービスの提供者

- ✓ 間に入るものなく直接やりとりしないようにしたい
- ✓ 両者最後は平行線になる。ぶつかり合ってしまうと実を結べるかもしれない話も結べなくなる。
- ✓ 間に入って両者の妥結点を見だししていくことが必要

医療利用におけるケアマネのような立ち回りが、
地域資源を掘り起こし、生み出すことにつながる



医療的ケア児者の就労

就労実現へのチャレンジ

重度障がい者の実就労の実現

重度障がい者の雇用検証

(1) 医療的ケアを要する重度障害者の市役所勤務

H30年3月飛騨特別支援学校を卒業した

S.Mさん

身障手帳1級

進行性筋萎縮症による両上肢、両下肢の著しい障害
著しい呼吸器機能障害、感音性難聴(人工呼吸器、胃ろう、吸引)

H30年4月～ R元年12月まで

飛騨市役所 市民福祉部 障がい福祉課で勤務



H30.4～R1.12 (1年9月間)

検証目的

- ① 飛騨市職員の意識改革
- ② 重度障がい者を雇用し、継続就労できるように何が必要か

【H30年度】

重度の障がいがあっても、障がいとなる環境を改善したら、特に問題なく就労できる。ただし、雇用主の負担は増得える。

→障がい者本人にしかわからないことを業務に活かす

ことで、業務の付加価値が高まると認識

【H31年度】

環境を整え、障がいがあるためのコミュニケーションの経験不足を解消

＝活用できる通信機器により、話し合える環境を整備し経験を積む。仕事支援員の支援内容の見直し
支援員達との信頼関係により、母親からの自立

R2.1.1 逝去

※R2年度に重症心身障害・医療的ケア児コーディネーターとして育成予定だった。

チームmy(すmyるプロジェクト)

○体 制

- ・身体介護:痰吸引(口腔内)のできるヘルパー(経管栄養等もできるようになった)
- ・「みらい」のスタッフでもある看護師
- ・仕事支援:障がい福祉課 仕事支援員
- ・お母さん 他

○勤務時間

- ・9時から12時 月6～7回
- ・本人の体調や仕事により自由な勤務時間

○通 勤

家族が実施

○業 務

コーディネーター見習い
重度障がい医療的ケア部会のワーキンググループ代表
すmyるプロジェクト事業 その他

障がい者本人や保護者
を含む多職種連携体制



★すmyるプロジェクト事業

彼女のやりたいこと発見

① がやがやお話し会

重心等のお母さんたちとの懇談会

第1回「今どんなサービスを使っているの?」、第2回「避難時の情報収集」

② 重度心身障がい児者スマイルガイド作成

事業所アンケートを行い、本人が実際に体験したり、見学し、感想や、事業所の特徴を伝える

③ 災害の調査

たん吸機保有病院等で、在宅医療機器使用者の停電時の対応等を調査

④ 介護タクシー等移動サービス調査

事業所アンケート作成→実際にどの程度の車いすが可能か調査

⑤ 市直営児童発達支援事業所で保育士見習い

①他の保育士が気づかない変化を発見、②3ヶ月すぎると、タッチできるようになる

⑥ 障がい者が安心して観光できるモデルルート「感幸マップ」を作成



(2) 重度障がい者の民間企業での一般雇用検証

市内の障がい児多機能型事業所「NPO法人はびりす」が脳性まひの女性を一般就労枠で雇用（月1・2日の就労）

特別支援学校卒業を機に、本人の強み（傾聴力）を活かし、グループセラピーのファシリテーター役や広報業務担当として活躍



卒業前の就労検討の中で必要となった課題に対し、
以前重心医療ケア者の市での雇用時の経験を踏まえ、
市でも新たに補助支援施策を組んで雇用をサポートした。



新たに施策化した市の支援策

- ① 雇用主企業がヘルパー事業所等に職場での介助を委託する費用を全額助成 (予算700千円)
- ② 雇用主企業から職場介助対応を依頼されたヘルパー事業所が、自社のヘルパーに喀痰吸引や経管栄養等の介助に必要な資格を得させるための費用を全額助成 (予算360千円)
- ③ 雇用主企業が看護師等の職場介助者を外部より手配する人件費を一部助成 (予算240千円)

飛騨市重度障がい者等就労支援事業実施要綱 (令和4年3月29日告示第119号)

(目的)

第1条 この告示は、重度訪問介護、同行援護又は行動援護の支給決定を受けている者(以下「重度障がい者等」という。)に対し、通勤や職場等における支援を行う重度障がい者等就労支援事業(以下「事業」という。)を実施することにより、当該重度障がい者等の就労機会の拡大を図ることを目的とする。



03

将来・もしもの時を共に考える体制づくり

地域生活支援拠点

地域で暮らす障がい者にとって心配な重大な局面とは

- 日頃面倒をみている介護者が急に病気やケガなどでみれなくなるとき
 - 面倒みている親が亡くなったあとの暮らし
 - ご自身の疾患が重くなっていき思うように動けなくなるとき
- など、このほか火事、震災、水害等災害時ほか様々な場面が想定されます。

これらを「もしも」という緊急事態としてとらえます。

地域生活支援拠点とはこのもしものときに対応できる個別の支援体制を整えて対応する市内の体制です



飛騨市の障がい者等の生活を支える公的施設、委託事業所等

この他各所にある民間の指定サービス事業所が専門的な支援を実施しています。



こうした緊急対応の課題解消には

平常時からのどう対応するかを検討が重要（事前準備）

平常時から「介護者の急な不在」等の緊急時の対応や「親亡き後」の生活について、本人、家族、支援者で具体的なことを検討して決めておくことが必要。

いわゆる「もしものときの対応プラン」をつくっておくと安心

- 緊急時にどのようにどこのサービスやインフォーマル資源をつかって暮らしを成り立たせるのか、もしものときのケアマネジメントをあらかじめしておく。また実際の支援発動の指示系統や連絡体制なども明確に決めておく。
- 緊急時に使いたいサービスがちゃんと使えるよう、平常時に体験利用から始めて使えるようにしておく。使えるようになったら定期的なサービス利用を入れて施設もご本人も常時慣れておくことで、有事に備えられる（介護者のレスパイト機会の確保にもつながる。）。
- 緊急時の事業者のサービス提供は、法定サービスとして給付することもできるし、法定サービスに乘せられなかった事情があっても市がその報酬分サービス対応の協力金として市独自財源でお支払いする形とし、サービス提供事業者はボランティアになることはないようにする。

飛騨市障がい者総合支援協議会～地域生活支援部会～

「未来予想シート」開発！



R7.8に特別支援学校
PTAでワークを実施し、
好評！

協議会～地域生活支援部会～

3年刻み

5年刻み

記入例

	2025	2028	2031	2034	2037	2042	2047	2052
家族構成								
本人	年齢 16	19	22	25	28	33	38	43
生活面	特別支援学校高等部1年	B型事業所へ通所	グループホーム見学体験・ショートステイの利用開始	ヘルパーと自立に向けた家事体験スタート		グループホーム入居		
健康面						住民健診で成人病と言われる・通院が始まる		体力や意欲が衰えてくる
経済面		障害年金の手続き				金銭管理の検討	社協の日常生活自立支援の活用	成年後見人の検討
父	46	49	52	55	58	63	68	73
生活面	中間管理職で土・日出勤が多い		グループホームや入所施設の見学			定年・再雇用		
健康面	痛風で通院					足・腰が痛くなる	腰の手術をする	体力が衰えてくる
経済面	姉の進学費用・学費・生活費仕送り					退職金で自宅リフォーム	年金生活が始まる	
母	43	46	49	52	55	60	65	70
生活面	姉の受験サポート中		グループホームや入所施設の見学		祖父母の介護が始まる	孫の守り		
健康面					更年期障害	五十肩になる	白内障の手術	
経済面						退職	年金受給	
姉	18	21	24	27	30	35	40	45
生活面	高校3年生・受験	就活・就職		結婚	出産・育児	復職		子どもの高校受験
経済面				結婚費用	出産費用			
祖母	70	73	76	79	82	87	92	97
健康面	元気に家事・畑仕事		後期高齢者	認知機能の低下	グループホームや入居・入浴・デイサービス利用			



04

こどもの発達・生育支援

子どもたちの生育支援



飛騨市のこだわりポイント

- ✓ 身体、心、社会性の3面からその子の特性や適した環境を専門的視点で捉え、必要な支援の見立てを行ってアプローチしていくこと
- ✓ 専門家がきちんと関われる支援体制をつくること
- ✓ 常に予防の視点で生育を遡りアプローチを専門家と考えること

01 産前産後～乳児期（やる気に満ちた地元開業助産師）

親の精神的・肉体的な安定への支援による愛着形成

- ・ 24時間365日Lineで助産師とつながれる「MY助産師制度」
- ・ 週2日助産師がいる自由な集いの場「にこにこルームまるん」



わたしの助産師さん むすび

02 乳児期（群馬のスーパー保健師）

こどもが生活しやすいからだをつくり、自分らしく生きる力を育む

発達の基礎は新生児から…「身体調和支援」を母子に展開！（はぐみんの日）

独自メソッドのマッサージや体操を通じて感覚を育み、バランスや筋肉の緊張を整え
感覚が入りやすい、動かしやすい、生活しやすい身体づくりを支援。



町村純子保健師

03 乳児期～幼児期（スーパー作業療法士）

親が気にしていることの原因を見立て、その子の強みと将来の姿を親に返す。

- ・ 7カ月児相談
- ・ 乳幼児遊びの広場
- ・ 保育園訪問

作業療法士による
乳幼児の強み見立て

～親子の関係づくりを促進～



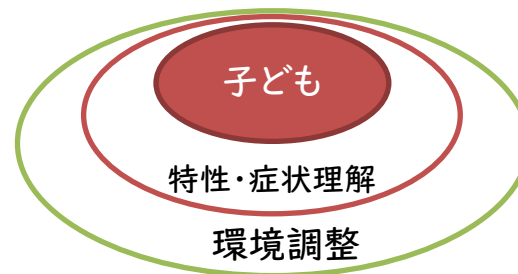
山口作業療法士

04 就学期

● 飛騨市こどものこころクリニック (児童精神科医、臨床心理士)

市直営の児童精神科診療所 (全国初)

- ▶ 児童精神科の治療目的はソーシャルワーク
- ▶ 教育への側面的支援
- ▶ 行政がやるべき医療



● NPO法人はびりす (作業療法士ほかセラピスト集団)

学校作業療法室の設置 (全国初)

- ▶ 個別支援 ▶ 集団支援 ▶ 教員、保護者支援 多様性理解
- 先生は学習を教えるプロ
- 作業療法士は、子どもたちの学校生活を支えるプロ

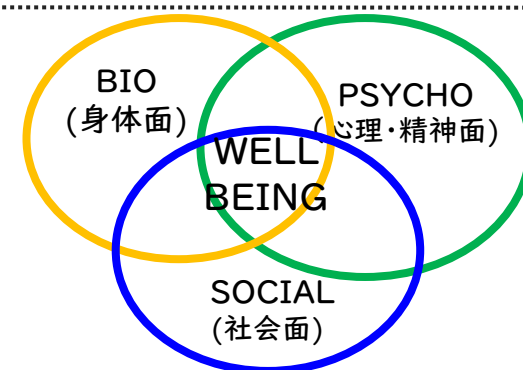


05 思春期

● 総合小児科医

「思春期健診」の社会実装検証中 (全国初)

- ▶ 自分を理解し、苦しい時に助けを求められるスキルを育てる。



学校作業療法室がやっていること

①学校全体への関わり

こどもが自分の困っていることの解決に向け、自ら作戦を立てて行動できる学校環境づくり

カナダのOTによって生み出されたCO-OP（コアップ）という課題遂行アプローチを用いる
「ティーチング」でなく「コーチング」

②学年・学級単位の関わり

学級活動の時間等で実施。

- ・**作戦会議**と称してこどもが自分の目標とそれを実現するための作戦を立てたるワーク
- ・**勉強に集中できるワーク**を実践。
- ・**多様性理解**をこどもにわかりやすく伝える。《環境調整》

③個別の関わり

学校作業療法室、通級指導教室で実施。

こども、保護者、先生の相談に個別に応じる

- ・先生からの相談「この子が気になる」「がんばってるのにうまくいっていない。どういうこと」
- ・こどもから「うまくいかないよー。どうすればいいか作戦を一緒に考えて」とやってくる。

定規を使ってもうまく線が引けないといった不器用さがある。どうすればよいのでしょうか？

①まずはOTが学校内で様子を観察

診断はないけれど「発達性協調運動障害」の状態ですね。

※例えば、縄跳びや文字をうまく書けないといった不器用さの障がい
もともとこの障がいの対応は、作業療法がメイン

これは医療機関でもなかなか診断つかないし、
学校ではただ「不器用な子」で済ませられることが多い。

- ・不器用さはトレーニングで改善するものではない。
- ・不器用さを治そうとするのではなく、その後の人生も見すえてどう対応していくか作戦を立てます。

②どの定規を使うとうまく線が引けるかOTと個別に作戦会議

定規の線がチカチカして見にくい。厚みの薄い定規は持ってる気がしない。
じゃあ線のない透明の定規で、厚みの厚い定規を使ってみよう！

③成果！

線引けたよ！

担任の先生にはこのような特殊な定規の使用を認めてもらうよう配慮をお願いした。



◎授業に集中できるワークの実施

先生の負担も減らします！



先生にビームを当てよう！

おしゃべりが大好きな女の子も、
キョロキョロソワソワしている男の
子もビームを当てるポーズをとる
中で自然と先生に注意が向くよう
になっていく



勉強の前の準備体操！

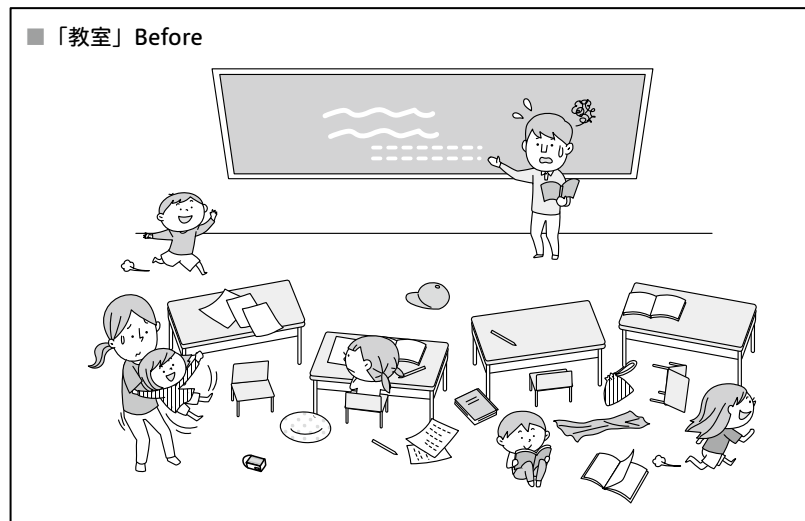
ドキドキハアハアと呼吸が乱れて
いると授業に落ち着いて組み
づらくなります。
授業の前には生徒たちと深呼吸
で息を整え、集中するための準備
体操。



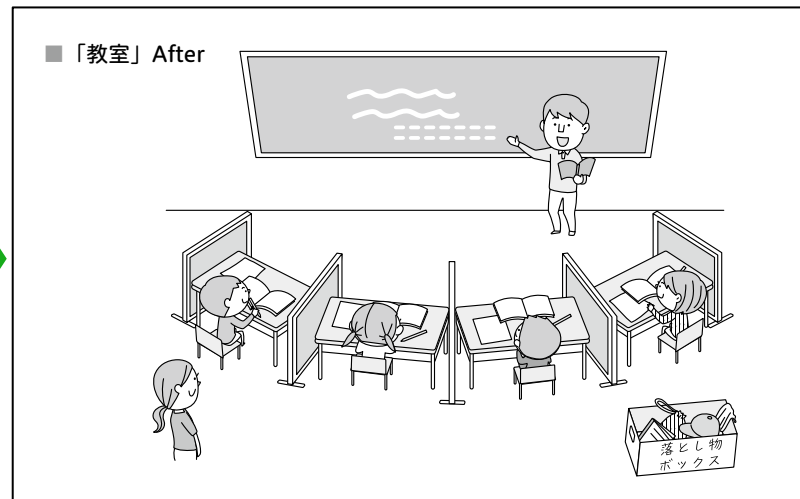
しこふみで体幹強化や姿勢安定
を図ります。授業を継続して集中
して受けやすいからだに整えます。

◎授業の環境を調整するサポートも行います。

効果的な教育環境づくり!



がちゃがちゃな状況

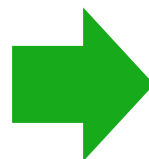


ピシーっ



特別支援学級

- ・子どもたちが席に座ってられない。
- ・教室を歩き回る。持ち物も散乱。
- ・支援員が席に戻そうと声をかけると余計に子どもは盛り上がる。余計に学習から離れてしまう。



- 机や椅子をラウンド型に配置。
- ホワイトボードで仕切りを入れる。
- 床に散乱する持ち物を入れておく箱を配置。
- ↓
- ・子ども同士の不要なやりとりが減少。
- ・先生に注意が向くようになった。
- ・授業が成り立つようになった。



個性に応じ 解決策探る

飛騨市の小中学校「作業療法室」

地域おこし協力隊OT三宅さん 人材育成へ仕組みづくり

作業療法士(OT)が飛騨市の小中学校を訪ねて児童生徒らを支援する「学校作業療法室」の普及に向け、地域おこし協力隊のOT三宅沙希さん(26)が、学校現場で将来働くOTの育成に向けた仕組みづくりを進めている。9日には古川小で、先輩OTと報道関係者向けの活動報告会に臨み、子どもを支援する授業も公開した。

学校作業療法室では、市が市内に拠点のあるNPO法人「はびりす」(大垣市)に委託し、心と体の専門家であるOTを全8小中学校に月2回ずつ派遣。子どもの学習のつまづきや生きづらさだけでなく、教職員や保護者の悩みに寄り添う。市は保育園や高校にも拡充し、全世代を切れ目なく支援できるようOTの人材育成に力を入れる。

同法人職員の三宅さんは堺市出身。信州大で作業療法を学び、長野県内の福祉施設に勤めたが、飛騨市の実践に共感して協力隊に応募した。現在はOT奥津光佳さんに付き添い、子どもたちが「作業」を立てて課題を解決する姿を

9日の公開授業は主に奥津さんが担当し、注意散漫でそわそわしがちな1年生のいる学級では、姿勢を正して集中力を高める体操や、脳をリフレッシュするための瞑想を取り入れた。授業を通じ、学級の児童らの下半身の育ちが緩やかで、脳が疲れている傾向に気づき、ゲームやスマートフォンの使用を抑えるように助言した。

着任から3カ月、三宅さんはOTと行政の密接な連携により、作業療法が地域になじんでいると実感したといい「学校作業療法を充実させ、人材育成のツールやノウハウを全国に広げられれば、その先で困っている子どもや先生、保護者の役に立てる」と前を向く。

教室の後ろで児童の様子を観察する三宅さんと奥津さん＝飛騨市古川小で

大活躍の 地域おこし協力隊OT 三宅沙希さん



地元新聞社でも大きく報道

学校作業療法士育成へ

地域協力隊制度活用、ノウハウ確立

飛騨市が新プロジェクト



学校作業療法のノウハウを実践形式で学ぶ三宅沙希さん＝飛騨市古川小で

月に開かれた第107回全国高校野球選手権岐阜大会の舞台となっており、県警は各球場の施設管理者に監視強化の協力を求めたり夜間のパトロールを強化したり

して警戒している。県警生356件だったが、今月に長補佐は「先手を打って抑止したい」と話した。

昨年の全国の金庫盗は、前年比4425件増の2万

けに現場を公開した。市は本年度、企業、事業所の職員を地域おこし協力隊員として委嘱し、隊員の人数を増やす。市が委託費として支払うスキームを始め、隊員を委嘱することに限りから交付税で財源措置される利点がある。飛騨市の学校作業療法事業の委託先、NPO法人はびりす(大垣市)の従業員で、大学で作業療法を学ぶ民間の福祉事業所に勤務経験のある三宅沙希さん(26)が隊員を務める。

か見立てをつづけていた。三宅さんは作業療法を幅広い年代、暮らしの場面に広げようとする市の方針に感心し「生きづらさを抱える人たち、子どもたちを支援したい」と話した。

飛騨市は本年度、プロジェクトとして作業療法まちづくり研究所を始めた。学校作業療法士の人材育成研究、対象を幅広い年代に広げる社会作業療法の推進が主な柱。市内小中学校に学校作業療法士を配置するほか、乳幼児、社会人にも関わるの幅を広げる構想を持っている。担当課長は「人生のどのステージでも、生きづらさを和らげ、適応性を高める支援が受けられるまちづくりを実現、検証していく。そのために人材育成のシステムを確立したい」と話した。

(三輪真大)

OT1人を確保し、最長3年間で市内の小中学校で受け入れ、カリキュラムや教材を実践形式で研究。育成システムの確立、将来的な人材の輩出につなげる。市は9日、報道、行政視察向

の小学校では、三宅さんは市の学校作業療法士奥津光佳さんとともに、担当教諭から相談のあったクラスや児童の様子を観察し、懸念される行動にどう対処する

介護福祉士ら養成奨学生に県内4人 生命保険協会決定

生命保険協会は、本年度の「介護福祉士・保育士養成給付型奨学金制度」の奨学生に、中部学院大短期大学部の学生4人を選んだ。奨学生には1人当たり24万

全国に広がる学校作業療法の波

7つの事例に見る導入モデルと実践の多様性



規模、予算、雇用形態の異なる7つの自治体・団体が示す
「それぞれの学校OT」の形

「飛騨市こどものこころクリニック」

- ・国保の直営診療所として、平成29年11月6日に開設
- ・市町村単独で児童精神科単科の診療所を設置するのは全国初

◆診療対象者

15歳以下の中学生までが対象（約1割が就学前の乳幼児）

◆具体的な診療内容

- 乳幼児では、集団生活の困難、癇癪、3歳児検診で指摘を受けたなどのケースが多い。学童・思春期では、学校・社会生活等の困難、不登校、引きこもり等、対人コミュニケーション等での困難、ご家族の子育てでの疲弊など。
- こどもの得意・不得意を評価し、具体的な助言を行い、臨床心理士とともにカウンセリング、認知行動療法、トラウマ治療、ソーシャルスキルトレーニング、ペアレントトレーニング、療育支援、薬物療法等さまざまな療法を実施。





飛騨市こどものこころクリニックの考え方

→児童精神医療は、行政が取り組むべき政策医療であり、ソーシャルワーク

様々な生きづらさを感じている子どもたちが、
「自分はこれからどのようにして幸せに生きていくのか」を見つけることが目的

いろいろな幸福のかたちを理解し、
その子なりの幸福のあり方を、本人や家族らとともに考え、手助けする

周囲の理解やその子に合った環境の工夫を通じ、
子どもが自ら行動をコントロールできる力を育み、様々な手段を会得する。
そしてこれまでうまくいかなかった学習等にも取り組みやすくしたり、
友達や家族との関係を良くしていくことで、充実した生活へと導く。
子どもに「生きていることの充実感」や「自分らしく、快適に生きる」ことができるように育てる。

「できないこと」といったマイナスばかりをフォーカスせず、
「やりたいこと」、個性・強みといったプラス面をフォーカスしながら、
ものの捉え方も変えて、マイナスの思いもプラスにみえるようにする。プラスを循環させる。



05

全世代のあらゆる困りごとと支援

成人期から老年期まで（幼少期からの継続も含め）

世代や分野で区切らず、困り事の相談をすべて受け止める市民のなんでも相談窓口

地域生活安心支援センターふらっと



幼少期から老年期まで市民の成長、発達、人生のウェルビーイングすべての過程にかかわる
おおよそどんな困り事も受け止めて、各専門機関との連携で支援を進める

母体は発達支援センター → 学校の「バイパス」機能が全世代を貫く人生支援体制に進化

国が自治体に体制整備を進めている重層的支援体制を国の補助にはのらずに市独自に行っています。

【職員体制】 センター長 1名（療育保育士(正職)）

総合相談員 2名（公認心理士(正職)、保健師(嘱託)）

社会福祉係2名も総合相談対応を兼務（生活困窮自立相談員(嘱託)、保育士(嘱託)）

《近年の施策化の着眼点》

生きづらさを予防していく

【社会的課題】

- ①問題が大きくなってからの支援では手遅れ。予防的支援が必要。
- ②書面のみの引継ぎは形だけになる。移行先の支援に活かされづらい。
- ③保育園から高校までの支援が社会にまでは引き継がれない。

大人の困難課題をみながら、

「なぜそうなったのか。防ぐことはできなかったのか。」

幼少期まで逆算して支援や支援体制、予防策を考える



保→小→中→高→社会（こどもから大人へ）

引継ぎを言語でなく具体的な支援方法等で。引継ぎは作業療法士が行う。

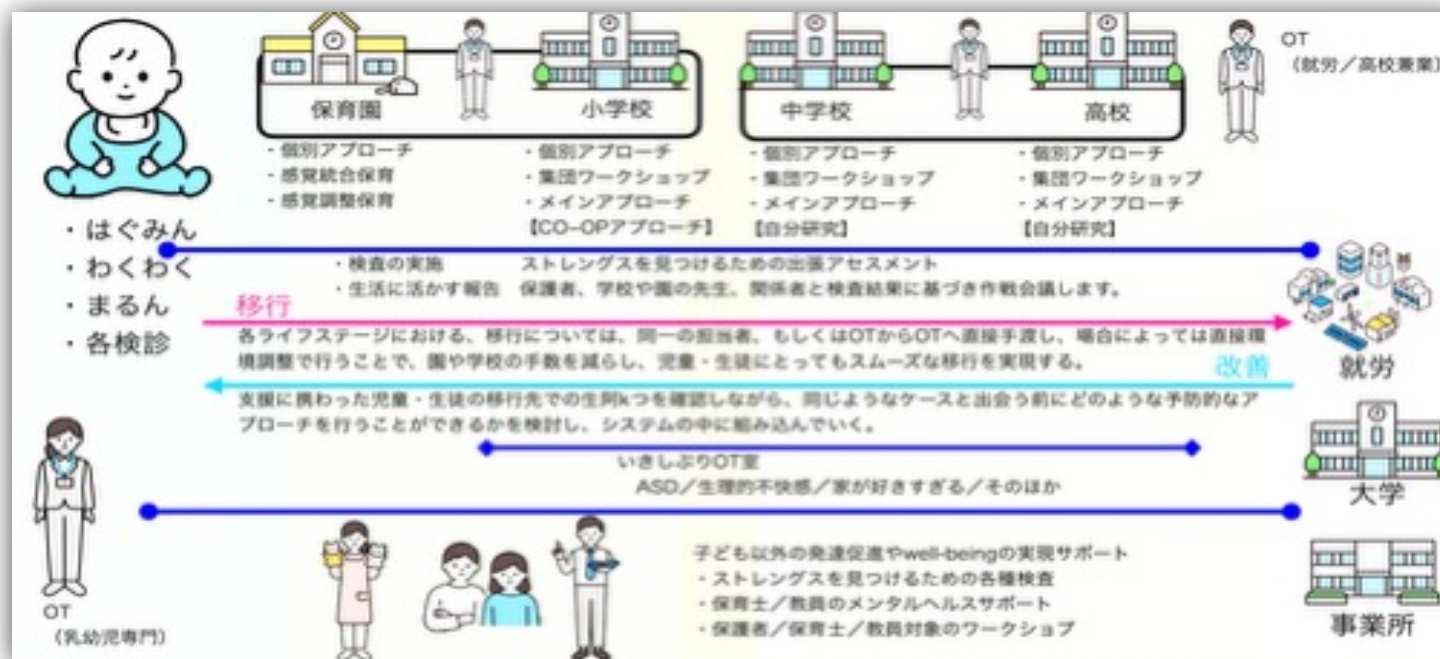
現場で調整することで、言語だけのやり取りになりがちなカンファレンス等の手間を減らす。

社会→高校→中学校→小学校→保育園→妊娠期・乳幼児期（大人からこどもへ）

問題が出てからの対応ではなく、問題が出る前にどのような育ちや支援があれば問題が減るのかを考える。

解決できない課題を検証し、どうしたら予防できていたか逆算の頭で遡って考え、支援策を生み出す。

目指している姿



令和8年度の主要取組 飛騨市支援ラボ事業

- ✓ **飛騨市作業療法まちづくり研究所創設** 5,817千円 主に企業版ふるさと納税、ふるさと納税財源
飛騨市で **働きながら人を育てる** 仕組みづくり。**地域おこし協力隊で学校OTを確保し育てる。**
名古屋市立大学と飛騨市の共同研究実施～学校作業療法の多地域展開研究～**国立研究開発法人科学技術振興機構研究プロジェクト**

- ✓ **生きづらさを予防していくための新たな支援資源の創設と定着強化** 3,855千円
- ・乳幼児身体調和支援「はぐみんの日」継続推進 **多様な感覚を育む独自メソッド**=成長過程で不調が生じないための予防
 - ・保育園作業療法の市内全園実施 **学校での生活のしづらさを持たないようその手前の段階から手を打つ取組**
 - ・じぶん研究 高校での理解普及 **社会に出ていく前に自分がどういった人間かを知る=苦しくならない進路選択**
 - ・パワーふらっと 問題や悩みそのものに焦点をあてず、自分の身体、健康にフォーカスするアプローチ **=ものすごい効果出てます**
 - ・支援者支援「セルフメンテナンス」の普及 **常時関わる家族も支援者、専門機関の支援者とともにメンタル維持**

- ✓ **思春期健診の社会実装化検証（3年目）** 3,382千円（半分県補助財源）※こどもの予防医学研究所を設立、ここへ委託
思春期健診（11～18歳の身体・心・社会面全体の健診）看護師等でもできる健診づくり **苦しくなっても早く助けを求められる力**を育む

- ✓ **働きづらさのある人の就労環境の整備** 2,451千円
- ・大人の療育・市独自自立訓練サービス「飛騨市C型就労継続支援サービス」の創設 作業療法士の見立てでの確かな能力成長支援
 - ・**企業での業務分解とA型施設外就労のマッチング**検証実施 **企業の仕事を小分けして、その人の強みで就労**による社会参加
 - ・**資格取得講座やカルチャー教室等も前に進むきっかけづくり** 受講費支援を開始（上限5万円）
 - ・就労支援施設への**作業効率向上支援**の補助制度推進 1社対象経費の2/3（上限50万円）就労支援施設での業務拡大
 - ・**ノルマのない生きがい就労 D型サービスの試行検証実施**



05

障がい児者支援にかける思い

行政の最重点施策とは

自らの力で暮らしていくことが困難な立場にある人たちを支援すること

障がいや疾病、経済的・社会的な事情等により、個人や家族の力だけで暮らしていくことが「困難な立場」にある方々に対しては、社会全体で支援していかなければならない。

**「困難な立場」というのは他人事ではない。
明日の自分の立場かもしれない。
だから、まさしく「自分ごと」。**

困ったこと、つらいこと、大変なことがあった時に、「困ってるんです」「つらいんです」「大変なんです」
と言っているんだという雰囲気をつくること

それに対して、誰かが「お互いさまですから」という気持ちを持って、なんとかしようと寄り添い、助けようとしてくれる地域をつくること

私の次男は最重度の知的障がいのある自閉症児である。特別支援学校中学部の1年生。多くの方々のご支援をいただきながら暮らしている。

次男の障がいがあったのは2歳の頃だ。言葉の遅れなどが顕著で、不安に駆られ、医師の診察を受け、自閉症との診断を受けた。今も知的には幼児程度だし、困難なことも多いが、我が子はいのちがある子を持って、大きく変わったと思う。

次男のいいところはどこだろうと毎日見ているうちに、同じように職場



障がい児の親として

飛騨市長 都竹淳也

の部下や同僚を見るようになり、強みを伸ばす組織運営をするようになった。弱い立場の人たちを意欲するように、障がい児者だけでなく、病弱や生活困窮、ひとり親家庭など、厳しい状況にいる人々を助けたいと強く思うようになった。そうした頃、県職員だった私は、願い叶って障がい児者支援の仕事に就くことができた。重慶心身障がい児者を医療面から支える仕事に打ち込んだ。市長となった今も、弱い立場の方々の支援は市の最重点だ。昨年は、自治体としては全国初の

児童精神科単科の診療所「飛騨市こどものこころクリニック」を開設した。日中一時支援事業所や発達支援センターの整備に力を入れている。今年強化する。こうした分野に力を入れているのは、誤解を恐れずに言えば、自分の子どものためである。公職にある自分が支援を充たさなければ、多くの方々が救われる。それは次男が私をしてなさいました。とであり、この子が世の中のお役に立っていただく。このことだけは徹底して親ばかりで

そして、不安と闘うご本人とご家族に

「何も心配は要りませんよ。安心してくださいね。」

と心の底から言える地域をつくるのが私の夢です。

そんな思いで、弱い立場の方々や障がい児者の支援に取り組んでいます。



ご清聴ありがとうございました